

---

# 咲き乱れよ！

ナミヘイ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

咲き乱れよ！

### 【Nコード】

N 6 4 5 9 M

### 【作者名】

ナミヘイ

### 【あらすじ】

春。晴れて高校進学をキメた俺。野望は高校デビュー！具体的なプランなど何も無い！何をもってして高校デビューとなるのだろうか。その定義すら曖昧だ！だけど今までの人生に別れを告げ、新たな道をいざ進まん！意気込んでいたところに現れた謎の美少女。野望を聞かれた俺。それが俺達の出会いだった・・・

## 出会い

春、桜舞い散る季節。

長い緩やかな坂道にあつらえられた様に並ぶ桜木。その道の続く先にある、全校生徒約五百人程の高校、らんぎく蘭菊高等学校。今日は新入生の入学式である。

今日から俺もイチ高校生だ。昨日までの俺よ、アディオス！おめでとう今日からの俺。そう、色んな意味でおめでとうだ。

無事に高校進学できた俺、おめでとう。

今日から心機一転、人生を変えてやると決め込んだ俺、おめでとう。そう、いわゆる高校デビューというやつだ。

必ずだ。必ず変えてみせる！今までの冴えなかった人生とはおさらばだ。

これからの思いと気合を胸に秘め、熱く力強い握りこぶしを胸の前で作り、頭上を見上げる。

それはもう見事に咲き誇った桜が所狭しと咲いていた。

ふふ。まるでこの桜も俺のことを応援してくれているようだ。

「俺はここで自分の人生に花を咲かせるのだ。そう、この桜達のように咲き乱れるのだ、わはは。」

感極まっと思わず声に出してしまっていたようだ。

そこでふと冷たい視線を感じた。

振り返ると一人の女の子が立っていた。

第一印象を言葉で表すなら、まず背の高さだった。

今時ではありえないほど低い。小学生高学年でもそのサイズはないだろうという低さだ。

俺の目算で135cmくらい。

そして異常に長い髪。腰の辺りまで伸びた綺麗なストレートヘア。この世のものとは思えないほど美しい、綺麗な髪。

キューティクルの質が人工のソレを完全に凌駕している。

そして極めつけが小さくも、綺麗に整った端正な顔立ちだった。

目は・・・ってか目つきは・・・なんだか悪そうなのが気になるが、単純な言葉で表すと、まさにフランス人形の様な人間がそこに現実として立っていた。

その背丈から小学生かとも思ったけれど、どうやら違うようだ。同じ高校の制服を着ている。

つまりは俺と同じ高校生ということだ。

つか、本当に人間なのか？怖いくらい綺麗だ。

そこで俺の心臓がドクンと大きく波打った。

なんだこの胸の高鳴りは！？なんだかヤベエ！

え？ってか、さっきの独り言きかれちゃったかな？

なんだか意味も無く、無駄に焦ってきた。

そして無駄に焦った結果俺がとった行動が、

「お、お、おはようっ！」

！！！！？

見ず知らずの女の子に思わず挨拶してしまった。すると一言返事が返ってきた。

「は？・・・」

あ、やばい。アレはドン引きの目だ。

何か無いのか！気の利いたセリフは！

「きよ、今日はいい天気ですねっ！」

「・・・」

そして出てきたセリフはありきたりなセリフ。

しかも曇りだった。

「絶好の入学式日和ですね。」

「・・・」

そんなはずはない。

蘭菊高校  
「蘭学の生徒ですよね？」

これから入学式に出席するってことは俺と同じ一年ですか？と続けて質問した。

「そうだけど。」

お、やっとまともな答えが返ってきた。

いい感じじゃないの？

このままの調子で話を続ければ、案外簡単に仲良くなれるかも！  
えっ！？ちよつと待って、俺。

何。何なの？

俺、この子と仲良くなりたいの？

たった今知り合ったばかりだよ？（知り合ってなどいない）

ナニナニコノヘンナキモチ。

もしかしてこれが噂の・・・

などと一人悶えていると、

「じゃあ、行くから。」

スタスタとその場を去って行ってしまった。

あ、まずい。

今この場で何かしらフラグを立てておかないと、この先一切進展しないままだ。

それだけは避けなければ。

そして慌てて追いかけ、そう、慌ててたが故に、思わず彼女の肩に手を置き、引き止めてしまった。  
と、同時に俺は宙を舞っていた。

何が起きたか、何をされたかサッパリ分からず、気が付けば俺は地面に叩き付けられていた。

「気安く触ってんじゃないわよ、このストーカー野郎！」

浴びせられた罵倒でハツとなり、全身に痛みが伝わり、そこでやつと気が付いた。

俺もしかしてこの子に投げられた？

こんな小柄な子に？

そしてふいつとそっぽを向いて再び学校へと歩き出した彼女。

俺は情けなくも、地面に倒れたまま彼女の後ろ姿を見送るしかなかった。

凛々しくもその美しい後ろ姿を。

そして俺はその場で随分とへこんでいた。

情けない・・・ああ情けない。

大の男があんな小さな女子に投げられるなんて・・・

アレ？でもバツチリフラグは立ったんじゃない？

最悪の印象から始まる物語。

いいんじゃないのいいんじゃないの。

うん、悪くないよ。いい感じだよ。

立ち直りは早かった。

変なところでポジティブなのだ。

こうして俺と彼女の小さな、ほんの小さな点と点が、細い線で一本繋がった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6459m/>

---

咲き乱れよ！

2010年10月10日21時25分発行